

オランダの在宅ケア組織 Buurtzorg（以下、ビュートゾルフ）との交流から発展して、このたび新しいプロジェクトを始めることになりました！

「地域包括ケア」の成功モデルとして、世界的に注目を集めるビュートゾルフ。本誌の昨年6月号でも特集が組まれ、創業者である地域看護師・ヨスさんの来日は7回を数えます。日本からも多くがオランダに赴き、全国各地の現場のみならずと豊かなご縁が生まれました。

他方、地域包括ケアシステムの構築をめざし、実現したい地域の姿の共有（規範的統合）のもと、日常生活圏域ごとにさまざまなケア機能を統合する「地域包括ケアステーション」への期待や提案が聞かれるようになってきました。

そこで「地域包括ケアステーション実証開発プロジェクト」は、全国各地で地域に根ざしたケアとまちづくりに取り組むみなさんと、ビュートゾルフのナレッジを共有して、住み慣れた地域でのその人らしい暮らしの継続を支える持続可能な地域ケア、玉ねぎモデル（図）に基づく生涯を通じた患者中心・住民本位の統合ケアの実現をミッションとして、その中核となる多主体・多職種協働ケアチームを実証的に開発しようとするものです。

「地域包括ケアステーション」とは

ご存知のとおり、現在の介護保険制度では、事業種別・事業所単位で人員や設備、運営の基準が定められ、報酬が支払われます。しかし、さまざまな機能が患

者の状態に応じて発揮される地域包括ケアシステムが功を奏するためには、これはあまり整合的とはいえません。

本プロジェクトでは、①玉ねぎモデルに基づき、②年齢や疾患・障害の別を問わず、生涯を通じて、③（少なくとも）「看護」「介護」「予防」「リハビリテーション」「ケアマネジメント」「医療」機能を組み合わせ、統合的なケアをめざす、④フラットなチームを「地域包括ケアステーション」と呼び、各地域の実情に合

「地域包括ケアステーション」を一緒に創りませんか？

「地域包括ケアステーション実証開発プロジェクト」世話人会
堀田聰子 西村周三
秋山正子

うかたちで、より柔軟な機能の統合を図る事業モデルの実験を行なっています。

既存の事業種別の組み合わせでは、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護×居宅介護支援×医療」「複合型×医療」などのほか、介護老人保健施設や医療機関、地域包括支援センター、保健センターなど、さまざまな形態が考えられます。プロジェクトの案内を始めて以来、全国各地で、1法人によるものだけでなく、

地域の多法人・多職種で、住民団体や自治体も巻き込んだ多様な「チーム」が検討されているところです。

「プロジェクト」の進め方

プロジェクトには、日常生活圏域とともに支援しうる「チーム」として参加、チームごとに「地域包括ケアステーション」パイロットステーションの事業計画案を作成していただきます。

3月13日にキックオフ・ミーティングを開催し、各地域の現状と将来像を背景とするチームの問題意識と、それに基づく事業内容、期待される成果とその把握方法について、参加チームおよび世話人会で共有・議論する予定です。

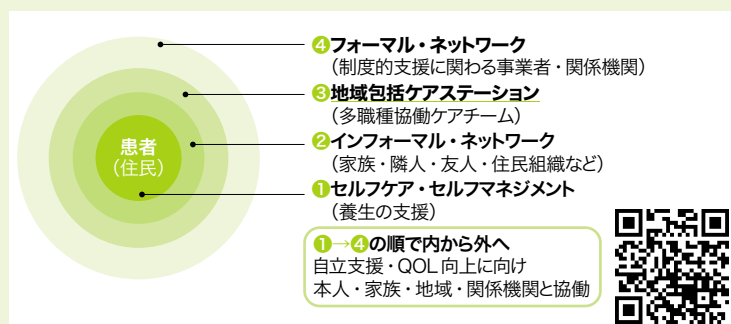
その後、各チームにおいて事業計画に基づいて取り組みを推進、アウトカムに関するデータを蓄積。来年度1年間にわたり、各チームの実践から生まれた気づきや発見、疑問、加えてビュートゾルフのナレッジを適宜共有し、取り組みをモニタリング・意見交換を重ねます。

プロジェクト終了時には、いくつかのタイプの「地域包括ケアステーション」の事業モデルとそれをサポートするバックオフィスやICT機能、適切なアウトカム指標のイメージ、そして関連する制度や報酬、各種基準などの論点を取りまとめ、広く情報発信していきます。

ともに現場発のイノベーションを！

より質の高いケアと、働きやすく働きたいのある仕事・職場を手がかりに、よ

図●玉ねぎモデルと地域包括ケアステーション



り人間的なケアと地域づくりに結びつける、いわば「日本版ビュートゾルフモデル」を一緒に創りませんか？ その要となる地域看護の担い手のみなさんが、地域のお仲間とともにご参加くださることをお待ちしています！（本プロジェクトの実施概要・参加要領は、事務局を務める一般財団法人オレンジクロスのホームページをご覧ください。）